

柏市学校管理職人材育成指標

職責の領域	資質・能力の基準		ステージ	学校経営前期 (教頭・副校長)		学校経営後期 (校長)	
A 学校を取り巻く社会的・文化的要因の理解	MISSIONの把握	学校を取り巻く社会的・文化的要因の理解	1	教育思想についての理解	次々に提起され、刻々と変化する教育界の状況を捉え、国内外の教育思想・考え方について、その背景や全体像、特質をとらえた上で、自らの教育方針を定めることができる。	国内外の教育思想・考え方について、その背景や全体像、特質をとらえた上で、自らの教育方針を定めることができる。	
			2	児童生徒の成長・発達についての理解	あらゆる児童生徒の成長・発達を、一人一人の個性を伸ばしつつ社会化を促すことを目指すものであること、特別な支援を必要とする場合は、合理的な配慮を行うことが求められることを理解し、自らの教育方針を定めることができる。	あらゆる児童生徒の成長・発達を、一人一人の個性を伸ばしつつ社会化を促すことを目指すものであること、特別な支援を必要とする場合は、合理的な配慮を行うことが求められることを理解し、自らの教育方針を定めることができる。	
			3	憲法・教育基本法等に基づく学校教育のあり方についての理解	日本の公教育システム全体について十分に理解し、日本国憲法、教育基本法等の関係法令等に基づいて自校の教育方針を定めることができる。	日本の公教育システム全体について十分に理解し、日本国憲法、教育基本法等の関係法令等に基づいて自校の教育方針を定めることができる。	
			4	国内外の社会・経済・文化的動向を踏まえた学校教育のあり方についての理解	国内外の社会・経済・政治・文化的動向に対する十分な理解に基づいて、現代の学校教育のあり方について深い洞察と時代の読み取りができ、中長期的な視野のもとで自校の教育方針を定めることができる。	国内外の社会・経済・政治・文化的動向に対する十分な理解に基づいて、現代の学校教育のあり方について深い洞察と時代の読み取りができ、中長期的な視野のもとで自校の教育方針を定めることができる。	
			5	千葉県・柏市の社会・経済・政治・文化的動向を踏まえた柏市立学校のあり方についての理解	柏市並びに学校の立ち地する地域の社会・経済・政治・文化的状況を十分に読み取り、地域の将来を見通すことができる広い視野を持ち、その先の展望のもとで自校の教育方針を定めることができる。	柏市並びに学校の立ち地する地域の社会・経済・政治・文化的状況を十分に読み取り、地域の将来を見通すことができる広い視野を持ち、その先の展望のもとで自校の教育方針を定めることができる。	
			6	柏市における家庭・地域社会の現状の把握と近未来の予測	様々な情報源を活用し、深い洞察のもと時代を読み取り、それに基づいた中長期的な視野で、自校に通う児童生徒の家庭や地域の社会環境を把握し、自校の教育方針を定めることができる。	様々な情報源を活用し、深い洞察のもと時代を読み取り、それに基づいた中長期的な視野で、自校に通う児童生徒の家庭や地域の社会環境を把握し、自校の教育方針を定めることができる。	
			7	柏市における家庭・地域社会との連携・協働の必要性についての理解	学校と保護者、地域住民の現状を適確に把握し、連携・協働を強化する自校の教育方針を定めることができる。	学校と保護者、地域住民の現状を適確に把握し、連携・協働を強化する自校の教育方針を定めることができる。	
			8	家庭・地域社会に対するMISSIONの設定と発信	地域社会の次代を読み取る深い洞察と意見に基づき、家庭・地域社会に対してMISSIONを定め、広く発信することができる。	地域社会の次代を読み取る深い洞察と意見に基づき、家庭・地域社会に対してMISSIONを定め、広く発信することができる。	
			9	学校におけるマネジメントのあり方についての理解	学校におけるマネジメントの構造と過程を理解し、教育の質を高める学校ビジョンを構想することができる。	学校におけるマネジメントの構造と過程を理解し、教育の質を高める学校ビジョンを構想することができる。	
B 学校ビジョンの形成と検証	ビジョンの作成	学校ビジョンの形成と検証	1	学校間連携の推進	同一中学校区の幼保こ並びに義務教育9年間をつないで、子どもの資質・能力の育成を図ることを目的に、課題の共有、各校の経営理念及び経営目標並びにカリキュラム構成について、連絡・調整する中学校区とのしきみ構築し、必要な手立てを講ずることができる。	同一中学校区の幼保こ並びに義務教育9年間をつないで、子どもの資質・能力の育成を図ることを目的に、客観的データに基づき、課題を見定め、課題解決を決定し、実行できる。	
			2	情報の収集と現状の把握	地域環境、保護者、スクールストーリー、カリキュラム、組織等に関する情報を積極的に収集する校内のしきみを整え、組織間でデータを共有し、必要な手立てを講ずることができる。	学校の現状を把握分析するため、収集したデータ(地域環境、保護者、スクールストーリー等)を基に学校ビジョンの適切性を判断し、必要な修正ができる。	
			3	関係者を巻き込んだビジョンの形成	学校ビジョン形成のため、すべての教職員・保護者・その他の学校関係者との情報伝達や意見交換ができ、我が校のしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	すべての教職員・保護者・その他の学校関係者との情報伝達や意見交換に基づき、納得が得られるビジョンを決定し、具現化を構想できる。	
			4	学校の意思形成システムの構築	学校ビジョンに基づき、課題解決に向けて、教職員の企画立案を促し、多面的な検討ができる意思形成システムを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	学校ビジョンに基づき、課題解決に向けた企画立案・検討・決定が一連の流れとして働くよう、客観的データに基づき、意思形成システムの適切性を判断し、必要な修正ができる。	
			5	家庭・地域社会と協働する内容・方法の実行と検証	地域連携を視野に入れたカリキュラム開発をすることにより、授業を通じて児童生徒が地域の一員として、地域貢献度を高めることができるかどうかを検証するしきみをつくり、必要な手立てを講ずることができる。	地域連携を視野に入れたカリキュラムによって、地域の一員として学校が地域の責任を果たしているかどうかを、客観的データに基づき判断し、必要な修正ができる。	
			6	学校ビジョンの浸透	学校ビジョンに基づき、カリキュラム、学年・学級組織並びにその他の分掌組織の年間計画等が作成されるよう組織間の調整ができ、必要な手立てを講ずることができる。	カリキュラム、学年・学級組織並びにその他の分掌組織の年間計画等が学校ビジョンに沿っているかどうかを、客観的データに基づき判断し、必要な修正ができる。	
			7	学校ビジョンの検証と見直し	適切な学校評価計画を組織的に立案、検討できるしきみをつくり、教職員、保護者、地域に学校評価計画とその結果を適切に公表できる。	学校ビジョンの適切性を、学校評価結果に基づき判断し、改善策を決定し、実行できる。	
C 教育資源の効果的な活用	ビジョン実現のための条件整備	教育資源の効果的な活用	1	OJTシステムの構築と稼働	日々の教育活動が反省的に積み重ねられていくよう、教職員に働きかけていくとともに、組織的な取り組みが展開されるしきみをつくり、必要な手立てを講ずることができる。	教育活動や学年・分掌活動が反動的に取り組みられているための方策を決定し、実行できる。	
			2	設備・備品の調整と点検	学校組織において、教材・教員の充足度、教材・教員の管理、施設・設備の整備状況などを調整、計画し、組織としてコストパフォーマンスを高め、成果を見取るしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	教育内容の質向上、業務改善につながるコスト意識を育てるため、教材・教員の充足度、教材・教員の管理、施設・設備の整備の方法などの情報を基に、調達、執行計画を決定し、実行できるとともに教育委員会に対して必要な設備・備品の整備の要求ができる。	
			3	予算の調達と適正執行	業務改善及び教育の質向上に向けて専務職員と共に、学校予算債権表校内で公開し、学校経営目標に沿った予算調達の校内の組織的執行体制を構築し、必要な手立てを講ずることができる。	業務改善を推進し、予算編成方針を教職員に周知し、適正な運用を図るとともに、教育委員会に対して客観的データに基づき、必要な予算の要求ができる。	
			4	教育情報の蓄積と整備	児童生徒の学校生活や学習の課題、教職員のプロフィールや勤務、保護者や地域の人の情報などについての情報を収集、蓄積するしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	蓄積された情報から、学校ビジョンの実現に必要なものを取捨選択し、ビジョン構築に反映できる。	
			5	タイムマネジメントの確立と調整	学校経営の重点に基づいて分掌間の仕事量を調整し、勤務時間の管理、時間の運用などそれぞれの方向性や指針を教職員に周知し、その成果を見取ることができる。	学校経営の重点やカリキュラムに基づいて仕事量の調整をし、時間の配分、授業時数の配当、日課の作成、学校行事計画、勤務時間の管理、時間の運用などそれぞれの方向性や指針を決定し、実行できる。	
			6	地域資源の把握とネットワークづくり	地域にある様々な教育資源をカリキュラムに活用できるしきみをつくり、必要な手立てを講ずることができる。	地域に開かれたカリキュラムづくりの必要性を、教職員や地域に積極的に伝え、カリキュラムマネジメントを展開できる。	
D 学校の組織設計と地域協働	ビジョンの具現化	学校の組織設計と地域協働	1	校務分掌システム(各種委員会)の確立と調整	学校ビジョン達成に向けて、最適な分掌組織を整え、その役割と機能を明確にし、活動状況や結果をデータとして収集・改善するしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	学校ビジョンの達成に向けて効果的な学校組織活動が展開されているかについて客観的データに基づき判断し、必要な修正ができるとともに教育委員会に対し、人員の配置を要求できる。	
			2	多様な人々・機関との適切な関係づくり	学校に関心を持つ様々な人や機関と教職員及び提案を互いにつなぐしきみをつくり、社会に開かれたカリキュラムづくりに必要な手立てを講ずることができる。	学校に関心を持つ様々な人や機関に対して尊敬と公正の態度を持ち、主体的な関わりを通して、地域協働に基づいたカリキュラム開発を展開できる。	
			3	カリキュラム開発と評価システムづくり	学校ビジョンの達成のため、児童生徒の課題と学習指導要領に基づき適切なカリキュラムの開発、実践を通し学習評価、授業評価、単元評価、カリキュラム評価を学校評価へとつなぐ評価システムを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	学校ビジョンの達成をめざすカリキュラムマネジメントが機能するよう、適切な学校評価を行い、改善策を決定し、実行できる。	
			4	主体的な学習を促す環境の整備と点検	あらゆる児童生徒が安心して高い学習意欲と主体性を発揮し、促進するよう学習環境(施設・掲示版・教室等)を設計し、学年・分掌間の連携調整を行い、必要な手立てを講ずることができる。	学習環境(施設・掲示版・教室等)が児童生徒の主体的な学習を促すものとなっているかどうかを客観的データに基づき判断し、改善策を決定し、実行できる。	
			5	教職員のキャリア・職務能力の把握と支援	一人一人の教職員のキャリア・職務能力の向上のため、課題意識や将来展望について、自己申告書、日常の観察や相談、柏市教職員人材育成指標及びその他のデータに基づいて把握し、支援できる。	一人一人の教職員のキャリア・職務能力を、自己申告書、教頭からの報告、柏市教職員人材育成指標、その他のデータに基づいて把握し、各自の課題意識や将来展望について十分理解し、支援できる。	
			6	教職員の内発性に基づく校内研究システムづくり	一人一人の教職員が自らの教育活動を省察する中で生じた課題を、学校に共通する課題に再設定するしきみをつくり、必要な手立てを講ずることができる。	学校として共通した課題を解決する校内研究を組織的に展開するための校内研究計画を決定し、実行できる。	
			7	教職員の同僚性に基づく公開授業システムづくり	校内研修において教職員が相互交流することを通して授業実践を促し、改善する公開授業のしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	カリキュラムを基盤として組織的に授業改善を図ることを目指して、互いに交流して授業評価を進める公開授業計画を決定し、実行できる。	
E 学校のリスクマネジメントの展開	教育セーフティネットの構築	学校のリスクマネジメントの展開	1	教職員と児童生徒の安全・衛生・健康の確保	業種教育、安全主任等の面から産業医・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、警備員、防犯指導員等と協働関係を構築し、必要な手立てを講ずることができる。	教職員、児童生徒の安全・衛生・健康を推進するため、学校内外に存在する関係者を結びつけた学校保健安全計画を策定し、実行できる。	
			2	登下校の安全確保	保護者と連携を図るとともに学校が所在する警察署その他関係機関、地域の安全確保する団体、地域住民との連携・調整するしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	通学路の安全を確保するために必要な施策や対応策を策定し、実行できる。	
			3	いじめ・不登校等の予防と対応	さまざまな情報源を発掘し、データを分析して、組織的に発見・防止・対応できるしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	いじめ・不登校の未然防止と対応について、発見・防止・対応を組織的に実行し、危機対応においては、的確な情報に基づき対応策を判断し、実行、収束ができる。	
			4	学校事故の予防と対応	安全教育が適切になされるよう、組織的・計画的な対応を促すとともに、校内の危険箇所の日常的な点検・修繕ができる。	安全教育内容の改善並びに事故発生時における対策要項の開発、日頃の訓練を組織的に実行し、検証するとともに、学校事故発生時は迅速に対応し、再発防止策を決定し、実行できる。	
			5	苦情の予防と対応	保護者、学校関係者からの苦情が発生しないよう、教職員に教育的配慮を促すとともに、苦情に迅速に対応し、校長に報告できる。	保護者、学校関係者からの苦情が発生しないよう、教職員に教育的配慮を促すとともに、苦情に迅速に対応し、再発防止策を決定し、実行できる。	
			6	自然災害への備えと対応	児童生徒に必要な防災教育を組織的・計画的に行うよう教職員に促すとともに、「危険発生時対応要領」づくりを地域と連携して作成でき、災害発生時には、「危険発生時対応要領」に沿って迅速に対応できる。	学校及び地域の実情に応じて危険発生時において学校職員が取るべき措置の具体的な内容及手順を定めた「危険発生時対応要領」を作成し、災害発生時には、迅速な判断、対応策を決定し、実行できる。	
F 倫理規範とリーダーシップ	我が「リーダーシップ」の省察	倫理規範とリーダーシップ	1	学校の責任者としての職業倫理	高い使命感と公正・公平の態度をもって職務にあたり、学校の責任者として自らの言動や行為のありようを絶えず省察することを通じて、職業倫理、職能成長に平穏の結果を目標申告や職務能力発揮シート並びにビジョンシート(学校経営計画)に記述できる。	学校ビジョン具現化に向けて、校長自身の意思をあらゆる立場の人々に対して説得力を持って明確に伝えることができ、その結果を見取ることができる。	
			2	説得力をもった明確な意思の伝達	学校ビジョン具現化に向けてカリキュラム、施設等を様々な機会を利用して説得力を持って教職員、保護者、地域社会に明確に伝えることができる。	学校ビジョン具現化に向けて、校長自身の意思をあらゆる立場の人々に対して説得力を持って明確に伝えることができ、その結果を見取ることができる。	
			3	学校関係者からの意見・要望の傾聴	教職員、保護者、地域、関係機関などからの異なる価値観、思想、文化などを認め傾聴し、自校の考えを生み出すことができる。	学校の最高責任者として多様な価値観、思想、文化などを認め傾聴し、施策や対応策を決定し、実行できる。	
			4	法令遵守	法令遵守に関して自ら率先して行動するとともに、法令遵守に関する情報を教職員に指導し、モラルアップ委員会などのしきみを構築し、必要な手立てを講ずることができる。	法令遵守に関して自らが高い意識を持ち、模範となるよう行動するとともに、教職員に安全配慮義務違反や不行為につながるような注意を促し、不祥事をゼロにするための施策や対応策を決定し、実行できる。	